

== 特集 =====

### 仕事と家庭、育児を両立すること

北海道大学病院 病理部 畑中 佳奈子

女性医師の割合が増加しており、特に若い病理医ではその半数を女性が占めるようになりました。女性医師の諸先輩のお話を伺うと、昔と比べ、今は各段に女性医師に対する周囲の支援や理解は進んできていると思います。今回は、私自身が受けてきた周囲の支援、設備の現状と今後の展望を述べさせていただきます。

私自身6歳の娘が一人おりますが、仕事と家庭、育児を両立するには3つのことが大切と考えています。

一つは支援していただく施設・設備です。勤務しております北海道大学病院では、幸運なことに娘が生まれてすぐに24時間年中無休の病院保育園が開園しました。実際には、夜間の使用はほとんどないようですが、それでも夜遅くまでのカンファレンスの際に、預かってもらえる保育園が常にあるということは、仕事をする上でとても重要でした。また、週末や夜などの講習会などの際にも預かってもらうことができるというのも、子供をもつ身としてはとてもありがたい環境でした。週末の講習会や地方会への出席はとても勉強になるものの、子供を預ける場所がないとなかなか出席が難しいのも事実です。私は日本病理学会の男女共同参画委員の北海道支部の一人でもあります。昨年度は年6回の日本病理学会学術集会(交見会)にも会場近傍の会議室にて託児室を併設させていただきました。会場近くでの託児であったことで親と子供と一緒に会場に訪れることができ、また子供同士が仲良くなることで、親同士も仲良くなり、そこで新たな支援の仕組みを知ることでもできるようになりました。今後は地方会のみならず、週末に行われる講習会などでも同様の託児室を整備していけたらと思っています。また、北大病院では病後児保育も開始しています。病気のあと子供は元気になりつつあるものの、まだ集団保育に戻すにはちょっと不安なとき、この病後児保育で穏やかに預かってくれることから安心して仕事に復帰することができました。病児保育はまだおこなわれておらず、今後の課題となっています。

二つ目は家族の協力です。私の夫は研究者ですが、仕事をしていることをよく理解してくれ、育児、家事などを完全に分担してくれています。仕事が忙しいときなど、母親として悩むこともありますが、そのようなとき身近に理解をして協力してくれる家族がいることは、仕事をしていくうえで本当に大きな支えとなります。

三つ目は、職場での理解です。子供が小さいときなどは、突発的な発熱などで特に周りに迷惑をかけがちです。病理は病理外来などが行われていなければ患者さんに接することは少なく、その他の科の医師に比べると影響はやや少ないものの、そ

れでも迅速当番や病理解剖などで、周りの先生にどうしても迷惑をかけてしまいます。そのような際に周りからかけてもらえる心配の声や温かい励ましの言葉にどれだけ勇気づけられたかわかりません。どうか、子供の小さな時は仕方のないもの、病理医は代わりがいるが母親、父親は代わりがないのだと、温かく見守っていただきたいと思います。そして子供を持つ親は周りの理解に感謝しつつ、できる精一杯の仕事をする姿勢も大切と考えます。

これらの三つがあって初めて仕事と家庭、育児が両立できると思っています。自分の今できることを精一杯頑張りがながら今後、後継となる若い医師が両立できるように支援をしていきたいと思っています。

### 病理学会関東支部の2012年度の託児についての報告書

男女参画委員 絹川 典子

2013年度より、日本病理学会100周年記念事業特別基金プロジェクトに基づいて各支部会で開始された託児所開設支援を受け、病理学会関東支部会では年4回の関東支部学術集会および病理学サマーセミナーの計5回について託児を企画しました。世話人の先生方および担当施設の先生方、事務局の多大なるご尽力をいただき、実際にはそのうち3回について保育が実施されました。内訳は下記の通りです。

第55回総会学術集会(2012年6月9日於杏林大学医学部)、3名申込み(8ヶ月、4歳、6歳) 2名保育、費用:52,100円。

病理学サマーセミナー(2012年8月5日於慶応大学病院)、申込みなし、費用0円。

第56回学術集会(2012年9月8日於自治医科大学)、申込みなし、費用0円。

第57回学術集会・第133回東京病理集談会(2012年12月15日於東京女子医科大学)、3名申込み(7ヶ月、1歳、6歳) 3名保育、費用9,250円。

第58回学術集会(2013年3月23日於帝京大学ちば総合医療センター) 2名申込み(10ヶ月、3歳) 2名保育、費用43,395円。

以上、保育費用として144,745円かかりました。

日本病理学会100周年記念事業特別基金プロジェクト(日本病理学会支部地方会での託児所設置に対する補助金)から142,800円であり、関東支部会による負担が1,945円でした。

#### 1. 運営、運用方法

1) 世話人の先生方のご尽力により、問題なく保育が行われました。利用者への告知、受付窓口は事務局が行ってくださり、最終的な予約の総括、世話人施設との連絡、保育委託会社との連絡は男女参画委員が行いました。来年度もこの方法で継続するのが、もっともスムーズな運用方法と考えられました。

2) 世話人となった施設では、保育に使用する部屋の確保、当日の部屋の設営に加えて、保育の規定に基づく、施設の状況等の事前調査、荷物の受け渡しなど、多大な労をとっていただいています。担当施設の先生方の支援なしには託児は成り立ちません。

## 2. 委託業者

保育業者(株)ファミリーサポートは、対応は丁寧で、経験の豊かな保育士が派遣されていると感じられました。毎回、開催施設が異なるので、保育士からは、必要な施設の状況を把握するために、事前の下見や、その他の細かい注文があり、世話人施設の先生方に対応いただき、大変ご迷惑をおかけしています。しかし、大切なお子さんを安全に預かるためには必要なことと考えられます。信頼できる会社であり、来年度もこの会社に継続して委託してよいと考えられました。

## 3. 利用者

1) 利用者は4~5名を推測していましたが、実際の申し込みはもっと少なく、2~3名でした。理由として日常的に通園している保育園に預けている、家族が世話してくれている等のほかに、学会への参加は任意なので、育児のために参加を控えている先生方もいる可能性も考えられました。

2) リピーターの利用者が多い傾向にあり、一度利用してみて、安心して預けられたことが原因と考えられました。ごく限られた人にしか支援がいきわたらない、という見方もできますが、支部会に参加したい、熱意のある先生方を支援することは、後に続く若い病理医のためにも意義が大きいと考えられました。

3) 小学生低学年の保育希望もあることがわかりました。今後、依頼人数が増えてくるようであれば予算の関係で再考を要すものの、来年度に関しては小学生低学年もお受けする方針とします。

## 4. 費用

1) お子さんの年齢によって1人の保育士が世話をできる人数が規則で異なっているので、一概にはいえないものの、保育するお子さんが1名の場合でも保育士2名の配備が必要なので、最少でも5万円弱の費用がかかります。少人数の場合には、1~2名増えても費用は変わらず、対費用効果が高くなるケースも多いことが体験されました。

2) 結局、今年度に関しては託児申し込み者のいなかった回もあり、3月23日の保育もあわせ、万円の出費が見込まれ、病理学会からの特別基金でほぼまかなえる見通しとなりました。

3) 年間予算は、年4回の学術集会にサマーセミナーを加えると、約25万円/年となります。

## 5. その他

1) 来年度は、会員や、利用した方たちへのアンケートなどを行って、より有効な方法を模索し、また、啓蒙活動の一助としたい所存です。

2) 本支部会学術集会への参加が、若い先生方のキャリアにつながるような何らかの方策とタイアップできれば、支部会がさらに活性化され、託児の重要性もさらに増すのかもしれない。

## 5. 総括

託児は多くの先生方の支援によって、成り立っています。子育て時期の先生方は、仕事の上で、常に周囲からの遅れや引け目を感じがちです。子育てをしながらも病理医としての業務、スキルアップができるよう会員全体が病理学会、支部会が連携して、さらに啓蒙活動をさらに行っていく必要があると考えられました。

今後、さらに、地道な託児支援の継続が必要です。男性医師の利用も含め、各施設での指導者や先輩たちからの若い先生方への助言をお願い申し上げます。

## 病理の修行と子育て

名古屋大学医学系研究科腫瘍病理学 岩越 朱里

病理医となって半年後に妊娠、出産、子育て、第二子妊娠、という生活の中で、周囲のご協力を得ながら学位と病理専門医を何とか取得し、あつという間に5年が過ぎようとしています。現在は3歳の息子の育児と大きくなったお腹に悪戦苦闘しながら、診断業務を主体に仕事をさせていただいています。専門医になっても日々の時間制限は変わらず、まだまだご迷惑をおかけする一方の存在であり、もどかしく感じる毎日です。

私は研修医2年目の初め頃まで内科医になろうと考えていましたが、会社員の主人との結婚が決まり、その後のワークライフバランスに関して少し考える時期がありました。ただしその頃は子育てについてというよりも、結婚して子供ができれば仕事の第一線から外されてもう戻れないのではないかと漠然とした不安が大きかったように思います。そんな時、当教室の高橋雅英教授に進路について相談する機会を得て、選択肢に病理が急浮上してきました。病理のポリクリで、子育て真最中の先輩医師がばりばりと活躍をされる姿を思い出し、それに加えて、「子育ては人生の大事なイベントの一つだ。子供は何人産んでもいい、必要なら休みをどれだけ取ってもいい。ただし自分自身のためにも必ず復帰して、ずっと仕事は続けなさい。うちに入局した女性医師は皆活躍している。できる限りの応援をする。」という、自身も共働き家庭で3人の子供を育て上げ、研究実績も残している教授の言葉に、病理医になる決心をしました。

早く一人前に！と意気込んで入局したのも束の間、上記のような状態となり、特に周囲の同世代の先生方には多くの負担を強いてしまっていることを大変申し訳なく思っております。しかしながら、日常お世話になっている教員や代務先の先生方からの対応等で、肩身の狭い思いをしたようなことは一度たりともありません。それどころか、貴重な時間と知識を惜しみなく分け与えて下さり、幸せな環境に心から感謝しています。これも、子育てを両立しながら現在活躍されている先輩病理医の方々の功績によるところが大きいと感じています。こうした先輩方の存在に、どれほど心が救われているかわかりません。

近年は地方会でも会場内に託児所を開設していただき、特に乳児期は授乳などに好都合で大変ありがたく思います。これまでは主人に学会や勉強会中の子守りを任せることが多かった

のですが、今後は2人の子供それぞれに手がかかることが予想されますので、さらに活用させていただきたいと考えています。しかし、幼い子供を普段慣れていない所に急に預けることは、子供の心理面を考えるとやや気が引けるところもあるかと思えます。個人的には託児所とともに、子守をする家族等と一緒に会場内で利用できるスペースやサービスがあれば、子育て中の会員も学会にもっと参加しやすいのではないかと考えました。また、子供がある程度大きくなったら、海外の学会のように子連れで会場に入ることも可能な雰囲気があるといいなと思います。

子育てに限らず、自身の体調や家族の都合など、思い通りに仕事がこなせない状況は、いつ誰にでも起こり得ることだと思います。そうした個々の状況をお互いが思いやり、協力し合う空気を尊重することは、病理医の結束ひいては社会貢献につながるような気がします。私が全体のために今できるのは、できる範囲の仕事を快く進んで引き受けることくらいですが、日々診断能力の向上に努め心の余裕を持ち、いつかは育てていただいた環境に恩返しができるような存在になりたいと考えています。また、0歳から保育園に通い、集団生活を通して目覚ましい成長を遂げる我が子に負けないよう私も成長を続け、Something more than just a motherとして子供達に何か伝えられるものがあればと思っています。

#### 親子で参加する学会 ーよく学びよく遊ぶー

関西医科大学附属枚方病院病理部 坂井田 紀子

「お座り、待て、ができるようになったら」と、長女が5歳になった頃に初めて連れていったのが15年程前の札幌の総会でした。我が家の場合、今はやりのイクメンやイクジョイに適切な人材はおらず、ン万円ほどかかるホテルの託児を頼んではいましたが、道中も絵本でおとなしかったため、こりゃいけるかもしれん・・・と思い、懐中電灯とお菓子を持参し、抱っこで親子一体化し、同伴出席を試みました。無事ン万円が浮いたことに味をしめ、それ以降、北海道から九州まで、周囲の方々の温かいご理解のもと、日本全国を子連れで学会旅行を楽しみました。札幌の学会から、5年程後に総会に託児所が併設され、下の子が1～2度お世話になりました。更に、病理学会百周年事業の補助を受け、昨年より支部学術集会にも託児所が併設されるようになりました。近畿支部では5月12日の総合医療センターでの学術集会を初回として、現在までに4回の託児所設置が行われています。託児を希望される家族は平均2～4家族、人数は2～6名で、非常に多いというわけではないのですが、女性病理医だけでなく、男性病理医からも申し込みがあり、“男女参画”らしい試みとなっています。託児は大阪府医師会からの紹介で学会託児の経験のある会社に依頼し、生後6か月から小学校6年生までのお子さんを受け入れています。利用された方々からは、“お迎えの時間を気にせず最後まで聞いて良かった”、“安心して発表に臨めた”等、好評を得ており、是非継続して欲しいとの意見が多く見られます。開催場所の先生方には通常の発表場所に加え、小会議室などを利用した託児室の確保等、

御尽力頂いています。

近畿支部の病理医数は475名(認定医数347名)、内、女性病理医数は108名(認定医数68名)と、共に約2割が女性ですが、医師国家試験合格者の女性の占める割合の上昇と共に今後増加することが予想されます(ちなみに当院病理部では医師5名(認定医3名)がたまたま全員女性。うち子持ち3名。生涯病理医の予定のようです。ありがたや・・・)。当大学では少し前は、形成外科、心療内科等が人気でしたが、次は病理が来る!と密かに思っていたところ、近年1名/年の入局が続いています。

私自身は小児科からワープしてきたのですが、その理由は「病理は仕事の段取りが小児科よりはつけやすく、大きな穴を空けずに生涯現役を持続できるだろう」と予想したからです。幸い予想的中でしたが、小児科に比べ暇だと感じたことはなく、むしろ慢性的に多忙の感があります。病理医が増えれば、慢性的な多忙は一旦は解消されますが、増えた人が続けなければ、「一瞬の解消」で終わってしまいます。学会に託児所を設けたからといって、子育てをする女医さんに非常に大きな助けになるわけではなく、微々たる支えとは思いますが、できることからコツコツと、です。休んでいる方が復帰する際の足がかりにもなれば、と思います。

子育ての先輩としては、若い女医さんを甘やかさず、“仕事も子育ても自己責任”の考えはしっかり身につけてもらいたい、しかしこっそり手助けもしつつ、と考える託児おぼさんの今日此の頃です。

#### 子育て病理医における病理学会支部会での託児所設置の意義についての一考察

香川大学医学部附属病院 病理診断科・病理部

香月 奈穂美

病理学会中四国支部に託児所が設置されるようになり、4回の会が開催されている。この託児所設置により、子育て病理医にどのような意識の変遷が見られたか、一例の検討を行って考察する。

中四国支部は、鳥取、島根、山口、岡山、広島から、香川、愛媛、徳島、高知まで、非常に広範囲の地域をカバーしているところが特徴である。さまざまな考えを持つ医師間で意見交換が行われることは非常に有意義なことではあるが、開催される地域によっては、非常に時間的な負担が大きいことも事実である。

たとえば、県庁所在地間を結ぶ鉄路(個人的な嗜好で申し訳ありません)を利用するとしても、山口あるいは松江から、高知あるいは松山までは、片道5時間以上かかることが多い。つまり往復だけで10時間、発表時間を事務局に頼み込んで昼一番にしてもらったとしても、朝8時前に出発し、帰宅するのは20時過ぎになる。下手をするとせつかくの休日なのに、子供が起きる前に出発して、寝てから帰ってくるということにもなりかねない。

仕事に対する理解と時間的余裕とたっぷりの愛情のある配偶

者がいて、そのうえさらに、おとなしくてお利口で聞き分けのよい子どもたちがいれば特に問題になることではないかもしれないが、そんな「奥様は魔女」みたいなアメリカンホームドラマのような家庭は絶滅寸前である。

そのような状況に恵まれない私の場合、従来の対応としては、遠方(片道5時間)の近親に都合を伺っては、可能であればベビーシッターを依頼する、というものであった。しかしそれも近親の高齢化に伴いなかなか難しくなってくるものである。結果的に子どもがいるから学会に行けない、というストレスは、自分にとって非常に辛いものであった。私のみならず、すぐ周りにも同じようなストレスをすでに抱えている、あるいはこれから抱えることになる医師は数多くいる。

そのような中、各方面から期待されてついに託児所が設置されたのである。

今回まで、私は2度の利用を行っているが、託児所が設置されることにより、大きく変化したことがある。学会発表を配偶者に説明しやすくなったことである。

出張に子どもたちを連れて行くのであれば、配偶者にかかる負担は明らかに少なく、いやな顔をされることもないんじゃないかと予想される。もちろん女性のみならず、男性病理医にとっても同様で、「うちのこれ(小指)が、これ(つ)のだから、、、」と遠慮することも少なくなるのである。配偶者も子どもたちも、「広島? 何がある?」「宮島だ!」「厳島神社だ!」と観光旅行気分になったり、「人体博物館って・・・ほんもんなん?」と科学ごころを刺激されたりするのである。

そのような家族の反応が、ひいては、診断に苦慮したこの症例を発表してみよう、とか、最近取り組んでいるこんな方法についての検討をしてみよう、とか、日々の診療に対する姿勢が変わってくることにもなるのである。そんなことが、病理学、さらに医学、もっといえばサイエンスの進歩につながっていくのである。

託児所の設置には具体的にどれほどのコストがかかっているのか、不肖なゆえ不詳ではあるが、サイエンスの進歩(さらには家庭円満)はpricelessであることを考慮すると、コストベネフィットは抜群であるといえよう。後進にとって歩きやすい道を作ることこそ、われわれの責務である。次回以後も、是非とも継続されることを期待したい。

## 九州・沖縄支部での子育て支援

福岡大学病理学講座・病理部 鍋島 一樹 青木 光希子

九州・沖縄支部では、日本病理学会100周年記念事業としての「病理医のための育児と学習支援プロジェクト」(加藤良平前委員長)採択をうけて、2012年3月の福岡大学での第326回九州・沖縄スライドコンファレンスにて予備的に行われた託児室設置を含め、これまでに計6回託児室が設けられ、以下(文末参照)に示す利用状況であった。

実際の利用者の声および、まだ利用していないが今後利用する可能性のある若手病理医の意見を聞くと「非常に助かる。」

「スライドコンファレンスに出席するモチベーションが上がる。」「夫婦で病理医であるため、託児があることによって二人で参加することが可能になった。」「他の学会では、地方会レベルで託児が付くことは通常無く、素晴らしいことだと思う。」「是非とも託児のシステムを維持してもらいたい。」と言った意見が聞かれ、小学生以下の子供を持ちながら働いている病理医、今後子供を持つ可能性のある病理医を目指す若手医師に歓迎されている。

九州沖縄スライドコンファレンスに参加している人数から鑑みると、利用者は少数ではあるが、「まだ使っていないが、是非使いたいので今後も継続してもらいたい。」「子供が小さくて、遠方だと連れて行けないが、もう少し大きくなったらもっと積極的に利用したい」等という意見もあり、今後も続けてもらいたいという声大きい。

託児場所、託児委託会社については、各開催地の責任者に一任する形で行われた。スライドコンファレンスが開催される県によって、託児を委託する会社が異なり、料金にばらつきは生じているが、年6回開催のコンファレンスで要した金額は128,790円で、順当であった。コンファレンス開催施設の託児担当者は、どの施設も初の試みであり、託児場所や委託会社の決定、申込の把握をどのように行うかなどで手間を要する場面もあったようであるが、概ね混乱なく手続き、契約が行われ、子供のあずけ入れ、迎えについてもスムーズに行われていた。

九州・沖縄支部では、橋本前支部長、横山現支部長の積極的なサポートのもと、本事業は順調にスタートし、昨年の総会においても会員に好意的に迎えられているという印象を持った。今後、利用者人数が大幅に増える場合は託児料金の一部負担となる可能性もあるものの、今年度の利用範囲内であれば概ね現状のままでの継続が可能と思われる。「開催施設の託児施設が講演会場に隣接してであると利用し易い(しかも安価)」ということも経験してみてよくわかった。今後、各施設で改修、改築、新築などの予定がある際には、考慮すべき項目の一つだと考える。個人的にも同僚会員に喜んでもらえる事業に参画できて嬉しいかぎりである。各施設で担当された方々にもこの場をお借りして御礼申し上げるとともに、そのご意見を伺って、今後さらに円滑な支部での運営が可能となるようにと念じている。

## 九州・沖縄スライドコンファレンス託児利用状況

- 1) 2012年3月 福岡大学 5名(0歳児2名、2歳児1名、3歳児1名、8歳児1名)
  - 2) 2012年5月 九州大学 4名(0歳児2名、3歳児1名、8歳児1名)
  - 3) 2012年7月 国立病院機構熊本医療センター 4名(1歳児2名、2歳児1名、3歳児1名)
  - 4) 2012年9月 福岡大学 4名(1歳児3名、4歳児1名)
  - 5) 2012年11月 佐賀大学 午前 2名(4歳児1名、2歳児1名)、午後 4名(4歳児1名、2歳児1名、1歳児2名)
  - 6) 2013年1月 産業医科大学 1名(4歳児1名)
- 延べ 24名、費用合計 128,790円

==私の趣味=====

## 美女たちと語らう

焼津市立総合病院 病理科 久力 権

PC端末の前で待っていると、時間通りに彼女達は現れる。この時代に生まれついたのは、ずいぶんと幸福なことだと思う。美女を独り占めするのにワンコインでお釣りがくる(30分間だけ、カメラ/モニターを介してだが)。On lineの外国語スクールを探したのが2年前で、それからは毎週2~3回、帰宅後、いそいそとスカイプ(動画付無料通話)を起動する。

初めはドキドキして彼女達が現れるのを待ただけだったが、さすがに今では内容も濃くなってきて、30分間を楽しく過ごすためには1時間半以上の予習が必要になった。「今夜は、時間があるから」なんて、もう、気まぐれで会うつもりはない。数週間前には約束を入れ、3日前から延べ2時間ぐらいの細切れ時間をかき集め、ジョークも含めて周到に準備する。さらに直前の音読で頭の中の文章構成をあっちの国仕様に近づけるため、20分前には一人で語ります。学生だった頃でも、女の子を誘うのに毎度こんなにも準備をしたことはなかっただろう。

「家では最も生き生きしている30分間」なのだそう。超短期留学から高揚して自宅に戻った刹那、「今日の娘、可愛かったね。」と、背後からうちの美魔女にも声をかけられることがあるが、私は平静を保っているはずだ。しかし、日本語は発語してないつもりでも、私の声色が変わるので見てなくてもわかるらしい。

On lineで4~5名の少人数レッスンに参加するのも面白い。隣に座った(?)アルゼンチンとブラジルの娘達が、近所だと言い合っていて受講者共用チャンネルでチャットを始めた。確かに隣だ。さすが高校生だけあって、授業よりチャットに夢中なのは、うちの長女と一緒に。でも、見たこともない綴りもあるし、話がかみ合っていないぞ。南欧の金融マンはずいぶんと気前のいいことを言っていたけど、本当か？中東に住むシステムエンジニア君の言ったことは、さっぱりわからなかったけど、私が伝えたかったことも彼にはわからなかっただろう。でも、それでも、私は、ことばを交わしたい。彼らの日常をわかりたい。

「趣味ってのは、それで喰ってはいけなさが捨てるには惜しいぐらいなもの」だと、学生時代、洒落な教授が言っていたけど、それはかなりハードルが高い。私は、ただ、ただ、ことばを紡ぐことで、相手を理解し、理解してもらえるように努める。逢瀬は300回を超えたが、終わることはないだろう。いくら続けたとて、これしきで喰ってはいけなことは承知だが、もはや止められない。

幸福な場所と時代に生まれたと思う。

== 支部報告 =====

## 北海道支部

北海道支部編集委員 深澤 雄一郎

### 学術活動報告

第157回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が鹿野 哲先生(北海道勤労者医療協会中央病院)のお世話で1月26日(土)、北海道大学医学部学友会館特別会議室において行われました。検討された症例は以下の通りです。

今回は、弘前大学の鬼島 宏先生をお迎えして、膵胆道系疾患の病理に関する特別講演会が行われました。

- 番号/演題/出題者/年齢、性別/最終診断
- 12-23/乳腺に発症した稀な腫瘍の一例/武田広子、鈴木宏明、山城勝重(北海道がんセンター病理診断科)/70歳代、女性/Metaplastic spindle cell carcinoma with myoepithelial differentiation (Myoepithelial carcinoma, malignant myoepithelioma)
  - 12-24/多発筋炎妊婦の子宮内胎児死亡/立野正敏(釧路日赤病院病理診断科)、青木直子(旭川医科大学病理学講座免疫病理分野)、柳内 充(市立札幌病院病理診断科)/30歳代、女性/Massive perivillous fibrin deposition(MPPD)
  - 12-25/末梢肺原発腫瘍の一例/中智昭、三橋智子、畑中佳奈子、藤田裕美、高桑恵美、松野吉宏(北海道大学病院病理部)/40歳代、女性/Glomus tumor of the lung
  - 12-26/横行結腸に発生した間葉系腫瘍の1例/松田玲奈、伊藤真理子、八代真一、村上洋平、鹿野哲、佐々木豊(勤医協中央病院病理科)/80歳代 女性/Leiomyosarcoma of the transverse colon

### 特別講演会

弘前大学大学院医学研究科病理生命科学講座 教授 鬼島 宏 先生  
「膵胆道系疾患の病理診断」

第158回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が鹿野 哲先生(北海道勤労者医療協会中央病院)のお世話で3月16日(土)、北海道大学医学部学友会館プラテ大研修室において行われました。検討された症例は以下の通りです。

- 12-27/卵巣腫瘍の1例/山本雅大<sup>1</sup>、櫻井宏治<sup>2</sup>、中嶋えりか<sup>3</sup>、西川祐司<sup>1</sup>(<sup>1</sup> 旭川医科大学病理学講座腫瘍病理分野、<sup>2</sup> 旭川厚生病院病理、<sup>3</sup> 旭川厚生病院産婦人科)/60歳代、女性/Strumal carcinoid
- 12-28/巨大卵巣腫瘍の一例/立野正敏(釧路日赤病院病理診断科)、齊藤良玄(同婦人科)、青木直子(旭川医科大学病理学講座)、柳内 充(市立札幌病院病理)/30歳代、女性/Ovarian spindle cell rhabdomyosarcoma
- 12-29/下肢の軟部腫瘍の1例/立野正敏(釧路日赤病院病理診断科)、青木直子(旭川医科大学病理学講座)、柳内 充(市立札幌病院病理)/30歳代、男性/Spindle cell rhabdomyosarcoma
- 12-30/仙骨部巨大腫瘍に伴う胎盤異常/木村幸子、横山繁昭(北海道立子ども総合医療・療育センター)/0歳 女児/Nonimmune hydrops placentalis (with high-output cardiac failure due to sacrococcygeal giant teratoma)
- 12-31/急速な増大を示した肺腫瘍の一例/八代真一、松田玲奈、伊藤真理子、村上洋平、鹿野哲、佐々木豊(勤医協中央病院病理科)/40歳代 男性/Spindle cell carcinoma
- 12-32/膵体部腫瘍の1例/市原 真、岩口 佳史、後藤田 裕子、村岡 俊二(札幌厚生病院 臨床病理科)/60歳代 女性/Hepatoid carcinoma of the pancreas

同日、北海道病理医会総会が行われました。

1) 2期4年の長きにわたって本会会長を務められた松野吉宏先生(北海道大学病院病理部)が昨年度をもって退任されました。選挙管理委員・近藤信夫先生(ジェネティックラボ病理解析

センター)より、先に実施された郵送投票の結果が報告され、次期会長として長谷川 匡先生(札幌医大附属病院病理部)が選出されました。今年度より長谷川 匡先生が本会のかじ取り役となります。

2) 今年度の標本交見会は外丸詩野先生(北海道大学大学院医学研究科分子病理)を担当幹事として、例年通り開催されず。平成25年度標本交見会は以下の日程で行われます。

- 第159回 2013年5月25日(土)
- 第160回 2013年7月20日(土)
- 第161回 2013年9月7日(土)
- 第162回 2013年11月30日(土)
- 第163回 2014年1月25日(土)
- 第164回 2014年3月22日(土)

#### ---東北支部-----

東北支部編集員 増田 友之

第76回日本病理学会東北支部学術集会および幹事会・総会標記集会が平成25年2月9-10日に仙台市良陵会館で開催され下記の事項が報告・協議された。

報告事項:

1. 第76回支部学術集会の概要について(八木橋支部長)
2. 理事会からの報告(八木橋支部長)

病理解剖の保険適応

日本病理学会よりのUMIN-IDを利用した情報発信等

精度管理に関するNPO法人の立ち上げ

病情報ネットワークセンター

会費の値下げ検討中

社団法人移行に伴う定款案の修正

3. 総務報告(渡辺担当幹事)

一般演題投稿のHP上への移行状況

4. 学術委員会報告(山川担当幹事)

東北支部における「若手研究者と学生発表の特別賞の選考方法(案)」及び「日本病理学会総会における座長候補者選定などに関する提出資料(東北支部会員情報の更新案)」

「若手研究発表特別賞」を決定、特別賞以外は「若手研究者奨励賞」を授与する」と決定

5. 企画・広報委員会報告(増田担当幹事)

病理専門医部会会報編集委員会で、「病理診断加算II」について情報収集の意向であったが、東北支部ではこの加算をとれた施設は少なかった。

男女共同参画委員会は、増田担当幹事の代理で出席した渡辺先生より説明があり、女性病理医の増加が著しい点、託児事業を今後も行っていく方向等が報告された。

6. 東北支部の活動について

第7回病理夏の学校について、主幹の笹野教授に代わって渡辺先生から資料にもとづいてお話があった。

開催時期:9月7・8日(土日)

開催場所:「宮城県白石市小原温泉 旅館かつらや」

講師:加藤光保教授

(筑波大学大学院人間総合科学研究科実験病理学教室)

米澤 傑教授(鹿児島大学大学院腫瘍学講座)

南口早智子准教授

(京都大学医学部附属病院病理診断科)

長沼 廣先生(仙台市立病院病理診断科)

今後の夏の学校のあり方について、現在までの実務者でワーキンググループを作り、検討することとした。

協議事項:

1. 第75回学術集会決算について、齊藤前集会長より説明があり、承認。

2. 第77回支部学術集会について、本間慶一集会長より説明があり、承認。

日程:平成25年7月27日(土)、28日(日)

会場:新潟大学・有壬会館

専門医試験の日程と重なり、会場も狭い等色々あるが、特別講演3題が決定し、若手研究発表も行う予定である、とのことであった。

3. 第78回支部学術集会について

平成26年2月15日・16日、良陵会館で行うことに決定した。

#### ---関東支部-----

第58回病理学会関東支部学術集会報告

帝京大学ちば総合医療センター病理部 石田 康生

2013年3月23日(土曜日)千葉大キャンパスけやき会館にて開催され102名の会員の参加がありました。今回は、やや趣向を変え、「病理部門における安全管理」というテーマで2題の特別講演を用意致しました。プリオン病と結核感染に関するもので、病理医が症例に直面したときに対応すべきか、問題点・注意点を喚起し解説・御講演頂けたと思います。一般演題は5題で、希少症例も含まれ、有意義な討論が行われました。当日のプログラムは以下の通りです。

特別講演1

「ヒト・プリオン病の感染予防」

黒岩 義之(帝京大学医学部附属溝口病院 神経内科・脳卒中センター)

特別講演2

「病理検査室における結核菌対策」

蛇澤 晶(独立行政法人国立病院機構 東京病院 臨床研究部)

座長:石田 康生(帝京大学ちば総合医療センター病理部)

一般演題

1. まれな組織型を呈した肝腫瘍の一例

鈴木理樹<sup>1,2)</sup>, 岸本充<sup>3)</sup>, 三島敬<sup>4)</sup>, 大塚将之<sup>4)</sup>, 宮崎勝<sup>1)</sup>, 太田聡<sup>2)</sup>, 中谷行雄<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup>(千葉大学大学院医学研究院 診断病理学<sup>1)</sup>, 千葉大学医学部附属病院 病理部<sup>2)</sup>, 千葉大学大学院医学研究院 病態病理学<sup>3)</sup>, 千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学<sup>4)</sup>)

座長: 菅野 勇(済生会習志野病院 病理部)

2. 肝細胞腫瘍および過形成性結節を合併した特発性門脈圧亢進症の一例

大部 誠<sup>1)</sup>, 中澤貴秀<sup>2)</sup>, 日高 央<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>3)</sup> (北里大学医療衛生学部病理学<sup>1)</sup>,

医学部消化器内科学<sup>2)</sup>, 日本医大多摩丘陵病院外科<sup>3)</sup>)

座長: 荒木 章伸(千葉県がんセンター 臨床病理部)

3. 不整脈と高度の両心室拡張を示した老年男性の一部検例  
阿曾達也, 宇於崎宏, 福里利夫 (帝京大学医学部病理学講座)  
座長: 田中 道雄 (東京都立広尾病院 検査科病理)
4. 菌原性癌腫の1例  
吉田真希<sup>1)</sup>, 山科光正<sup>2)</sup>, 榎本 愛<sup>3)</sup>, 長尾俊孝<sup>1)</sup> (東京医科大学人体病理学講座<sup>1)</sup>, 病院病理診断部<sup>2)</sup>, 口腔外科学講座<sup>3)</sup>)
5. 術後6年で頰内膜腺癌を発症した卵巣頰内膜境界悪性腫瘍の一例  
山崎一人<sup>1)</sup>, 佐川義英<sup>2)</sup>, 梁善光<sup>2)</sup>, 石田康生<sup>1)</sup> (帝京大学ちば総合医療センター病理部<sup>1)</sup>, 産婦人科<sup>2)</sup>)  
座長: 岸本 充 (千葉大学大学院医学研

### 第35回茨城病院病理医の会

期日: 2013年2月23日(土) 会場: (茨城県取手市)

世話人: JAとりで総合医療センター 稲留征典

参加人数: 19名

<症例検討会>

- 1) Henoch-Schoenlein 紫斑病(HSP)と消化管血管炎の共存した例  
大谷明夫 (水戸医療センター病理診断科)
- 2) 高血糖高浸透圧症候群を示し多臓器不全で死亡した一剖検例  
芝田敏勝, 他 (みさと健和病院病理部)
- 3) 診断に苦慮した子宮付属器腫瘍の1例  
近藤謙 (霞ヶ浦医療センター研究検査科)
- 4) 特異な画像所見および肉眼所見を呈した乳腺腫瘍の一例  
澤文, 他 (筑波大学附属病院病理部)
- 5) 病理組織診断に苦慮したホジキンリンパ腫の二例  
臺勇一, 他 (筑波記念病院病理科)
- 6) 病理解剖にて特異な脊髄病変が認められた、急性リンパ性白血病再発後のダウン症候群の1例  
里見介史, 他 (筑波大学医学医療系診断病理学)

<特別講演>

胃癌の特性と適正なHER2検査

九嶋亮治先生 (国立がん研究センター中央病院病理科)

### 第63回埼玉病理医の会

期日: 2013年2月22日(金)

会場: 自治医大さいたま医療センター

世話人: 野首光弘

参加人数: 19名

症例検討: 出題者所属・氏名/年齢・性別/臨床診断/病理診断.

- 1) 自治医科大学附属さいたま医療センター・蛭田昌宏/60歳代・男性/肺腫瘍  
/Localized malignant mesothelioma.
- 2) さいたま赤十字病院・安達章子/60歳代・男性/肺腫瘍  
/Inflammatory myofibroblastic tumor.
- 3) 埼玉医科大学国際医療センター・高柳奈津子/30歳代・女性/小腸腫瘍  
/Clear cell sarcoma-like tumor of gastrointestinal tract.

### 第38回千葉地区集会

帝京大学ちば総合医療センター病理部 石田康生

2012年10月13日(土曜日) 15時

千葉大学医学部第一講義室

セッション1 座長: 済生会習志野病院 菅野 勇

1. 右大腿骨骨折があり、骨シンチグラムで多発性骨病変を指摘された右肋骨腫瘍の1例  
杉山孝弘<sup>1)</sup>, 池部大<sup>1)</sup>, 横田亜矢<sup>1)</sup>, 川名秀忠<sup>1)</sup>, 荒木章伸<sup>1)</sup>, 伊丹真紀子<sup>1)</sup>, 米本司<sup>2)</sup>, 石井猛<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>千葉県がんセンター臨床病理部, <sup>2)</sup>同 整形外科

2. 腰痛・左下肢しびれにて発症した胸椎硬膜内髄外腫瘍の1例  
尾崎大介<sup>1)</sup>, 石田康生<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup>千葉労災病院病理科, <sup>2)</sup>帝京大学ちば総合医療センター
3. 組織診断に苦慮した右手掌母斑性腫瘍の1例  
山崎一人<sup>1)</sup>, 白樫祐介<sup>2)</sup>, 石田康生<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>帝京大学ちば総合医療センター病理部 <sup>2)</sup> 帝京大学ちば総合医療センター皮膚科  
セッション2 座長: 帝京大学ちば総合医療センター 石田康生
4. 稀な組織像を呈した脳腫瘍の1例  
吉田健也<sup>1)</sup>, 徳山 宣<sup>1)</sup>, 梶 幸子<sup>1)</sup>, 黒木貴夫<sup>2)</sup>, 安藤俊平<sup>2)</sup>, 羽賀大輔<sup>2)</sup>, 長尾建樹<sup>2)</sup>, 寺田一志<sup>3)</sup>, 蛭田啓之<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>東邦大学医療センター佐倉病院病理部, <sup>2)</sup>同 脳神経外科, <sup>3)</sup>同 放射線科
5. 甲状腺腫瘍の一例  
岩本雅美<sup>1)</sup>, 富居一範<sup>2)</sup>, 清川貴子<sup>2)</sup>, 中谷行雄<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>千葉大学大学院医学研究院 診断病理学, <sup>2)</sup>同 病態病理学

2013年春期地区集会は第58回病理学会関東支部学術集會を主管(千葉大学けやき会館)したため独立して開催せず。

### 第96回神奈川県病理医会例会

平成25年1月12日(土) 午後、東海大学伊勢原キャンパスで行われた。参加者は82名。

<症例検討>

- Case 472「十二指腸・膵鉤部腫瘍の一例」  
中島裕康先生他(北里大学医学部病理学)
- Case 473「多発性内分泌腫瘍症の1例」  
成木佐瑛子先生他(聖マリアンナ医科大学病理学)
- Case 474「健診で指摘された16歳男性の肺腫瘍」  
林さくら先生他(東海大学医学部病理診断学)
- Case 475「長期経過を経た骨形成性後頭部腫瘍の1例」  
竹川義則先生(横須賀市立市民病院病理診断科)
- Case 476「術中迅速診断で悪性リンパ腫と誤診した、盲腸原発神経内分泌細胞癌の1例」 熊谷二郎先生他(横浜市立みなと赤十字病院病理部)
- Case 477「6p12/TFEB転座型腎細胞癌と思われる1例」  
田辺美樹子先生他(横浜市立大学附属市民総合医療センター病理診断科)
- Case 478「臨床的に悪性リンパ腫との鑑別が困難であった原発不明癌の剖検例」  
田尻琢磨先生他(東海大学八王子病院病理診断科)
- <特別講演>  
「肺癌WHO分類の最近の話題」  
野口雅之先生(筑波大学医学医療系診断病理学教授)

### ---中部支部---

中部支部編集委員 森谷 鈴子

第16回日本病理学会中部支部スライドセミナーが下記の通り開催されました。

日時: 平成25年3月23日

世話人: 富山県立中央病院 病理診断科 石澤伸先生

会場: 富山県立中央病院 5F ホール 参加人数: 103名

(講演1)

佐藤康晴先生(岡山大学)

「IgG4関連疾患: リンパ節病変の特徴と病態形成メカニズムへのアプローチ」

ー反応性リンパ節の形態的な変化のパターン(総説)

ー濾胞過形成(PTGC型)を来す場合の鑑別診断

(座長: 富山赤十字病院 病理部 前田宜延先生)

(講演2)

浅野直子先生(名古屋大学)

「EBV関連リンパ節症およびリンパ増殖疾患」

ーimmunoblastic proliferationを来す場合の鑑別診断(特にDLBCL)

(座長: 富山県立中央病院 病理診断科 石澤伸先生)

(講演3)

小島勝先生(獨協医科大学)

「膠原病と自己免疫疾患に伴うリンパ増殖疾患とその周辺疾患」

—interfollicular expansionを来す場合の鑑別診断

(座長:富山大学大学院医学薬学研究部 病理診断学 井村穰二先生)

(症例検討)

2013-1 磐田市立総合病院臨床検査科 谷岡書彦 生検時5歳、現在12歳男  
腸間膜リンパ節

Progressive mesenteric lymphadenopathy related with Gaucher disease.

酵素補充療法にて肝脾腫と貧血は改善しているが、腸間膜リンパ節の腫大と石灰化が進行した稀少例。メカニズムとして薬剤による組織球の反応性増大などが考察された。

2013-2 飯田市立病院病理診断科 尹漢勝 76歳男 縦隔リンパ節

Reactive lymphadenopathy, unknown etiology.

難解例で、諸専門家の意見も紹介された。大動脈弁置換術後の変化、EBV関連リンパ増殖性疾患の可能性が指摘された。

2013-3 福井大学医学部附属病院病理部 堀江直世 60代男 頸下部リンパ節  
IgG4 related lymphadenopathy.

リンパ濾胞と濾胞間にIgG4陽性細胞が認められた。臓器によって線維化や静脈炎の頻度が異なる事が考察された。

2013-4 金沢医科大学臨床病理学 黒瀬望 70代男 傍気管リンパ節

TAFRO syndrome

難解例。IgG4陽性形質細胞が多数認められたが、血中IL-6高値、高γグロブリン血症、CRP上昇などmulticentric Castleman diseaseの特徴も有し、血小板低下がみられた。IgG4関連疾患、multicentric Castleman disease, TAFRO症候群の比較、関係について説明がなされた。

2013-5 市立砺波総合病院病理科 杉口俊 60歳男 腋窩リンパ節

Diffuse large B-cell lymphoma, interfollicular type

良性変化との鑑別が難しく、特に初回生検は良性の濾胞過形成のように見える病変であった。60歳以上で特に誘因の見当たらない濾胞過形成に遭遇した時、本疾患を鑑別に挙げて免疫染色を行う事が望ましいとの教訓的な考察がなされた。

2013-6 富山県立中央病院病理診断科 内山明央 70代女 頸部リンパ節

IgG4 related lymphadenopathy.

IgG4陽性細胞が主に胚中心に存在し、PTGC型の良い例であった。

#### (中部支部学術奨励賞授与式)

今回より、中部支部の将来を担う病理医を育成することを目的として若手の優秀な病理医に贈呈し、その発展をはかるために学術奨励賞の授与を行うことになりました。今回は昨年12月に行われた第70回交見会の発表者の中から下記の先生方が受賞されました。

学術奨励賞(カテゴリーA:専門医試験合格前)

山田 勢至先生(名古屋大学臨床病態病理学)

久松 憲治先生(岐阜市民病院)

村瀬 陽太先生(公立陶生病院)

学術奨励賞(カテゴリーB:専門医試験合格3年以内)

岩越 朱里先生(名古屋大学腫瘍病理学/名古屋医療センター)

学術奨励特別賞

濱島 丈先生(富山大学病態病理学)

学術奨励優秀発表賞

鈴木 潮人先生(磐田市立総合病院)

#### 次回学術集会

第71回中部支部交見会

日時:平成25年7月13日(土)、14日(日)

場所:福井県立病院

世話人:福井県立病院臨床病理科 海崎 泰治先生

#### —近畿支部—

近畿支部編集委員 伊東 恭子

近畿支部の最近の活動および今後の活動予定をお知らせいたします。

I-1. 第60回日本病理学会近畿支部学術集会在下記の内容で開催されました。

日時:平成25年2月16日(土)

場所:神戸大学

世話人:横崎 宏先生(神戸大学)

テーマ:肝臓の炎症性疾患

モデレーター:伊藤智雄先生(神戸大学)

以下にプログラムを掲載いたします。(なお、検討症例、画像等につきましては(<http://jspk.umin.jp/H24-/gakujuutushu-kai/57th/program%2057th.html>) で閲覧可能です。)

なお、今回も託児所を開設いたしました。

症例検討

座長:中塚伸一先生(関西労災病院)

816 肝腫瘍の1例

松岡亮介先生, 他(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科, 他)

817 肝全体が著明な腫大を呈した血管腫の1例

市川千宙先生, 他(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科, 他)

座長:新宅雅幸先生(大阪赤十字病院)

818 傍卵巣腫瘍の1例

福島裕子先生, 他(大阪市立総合医療センター病理部)

819 十二指腸巨大ポリープにより十二指腸空腸重積をきたした1例

倉重真沙子先生, 他(大阪大学医学部附属病院病理部, 他)

座長:井上 健先生(大阪市立総合医療センター)

820 頸部リンパ節腫大の1例

上原慶一郎先生, 他(神戸大学医学部附属病院病理診断科)

821 耳下腺腫瘍の1例

原田博史先生(生長会病理センター 府中病院 病理診断科)

座長:横崎 宏先生(神戸大学)

特別講演1:『自己免疫性肝疾患の肝病理診断』

鹿毛政義先生(久留米大学病院病理部)

座長:林 祥剛先生(神戸大学)

特別講演2:『慢性肝炎の進行度活動度評価』

若狭研一先生

(大阪市立大学大学院医学研究科 診断病理学)(附属病院病理部)

座長:伊藤智雄先生(神戸大学)

:羽賀博典先生(京都大学)

移植病理シンポジウム

1. 移植医療の現場から

古川博之先生(旭川医科大学 消化器病態外科)

2. 移植病理診断学の基礎

伊藤智雄先生(神戸大学医学部附属病院 病理診断科)

3. 移植病理の最先端

羽賀博典先生(京都大学医学部附属病院 病理診断科)

I-II. 市民公開講座が下記の内容で開催されました。

日時:平成25年1月12日(土) 14:00-16:00

場所:京都府立医科大学 図書館ホール

モデレーター:三上芳喜先生(京都大学)

テーマ:乳癌の早期発見と治療

講演1『乳癌ってどんな病気?』

森谷鈴子(名古屋医療センター病理診断科)

講演2『知っておきたい乳癌の診断と治療』

杉江知治(京都大学医学部附属病院乳癌外科)

講演3『乳癌の新しい治療』

佐治重衡(京都大学大学院標的治療腫瘍学講座)

講演4『検診を受けましょう』

森口喜生(京都市立病院乳癌外科)

講演5『乳癌診療をささえる病理医がいます』

若狭朋子(大阪赤十字病院臨床検査科)

## II. 今後の学術集会の予定です。

### II-1. 第61回日本病理学会近畿支部学術集会

日時:平成25年5月18日(土)

場所:大阪市立大学

世話人:上田真喜子先生(大阪市立大学)

テーマ:非腫瘍性肺炎患・胸膜病変

モデレーター:大林千穂 先生(奈良県立医科大学)

特別講演

『間質性肺炎』福岡順也 先生(長崎大学附属病院)

<診断講習会>

1. 感染性肺炎患(抗酸菌感染症を中心に)  
清水重喜 先生(近畿中央胸部疾患センター)
2. 非感染性肉芽腫性疾患(サルコイドーシス、HPを中心に)  
安原裕美子 先生(京都桂病院)
3. 肺血管病変  
大郷恵子 先生(国立循環器病研究センター)
4. 膠原病関連の肺病変  
本庄 原 先生(天理よろづ相談所病院)
5. 非腫瘍性胸膜疾患(中皮腫の鑑別を中心に)  
笠井孝彦 先生(奈良県立医科大学)

### II-2. 第62回日本病理学会近畿支部学術集会

日時:平成25年9月28日(土)

場所:関西医科大学(枚方)

世話人:螺良愛郎 先生(関西医科大学)

テーマ:骨・軟部腫瘍

モデレーター:小西英一 先生(京都府立医科大学)

### II-3 第63回日本病理学会近畿支部学術集会

日時:平成25年12月7日(土)

場所:京都府立医科大学

世話人:伊藤彰彦 先生(近畿大学)

テーマ:胆道・膵臓

モデレーター:柳澤昭夫 先生(京都府立医科大学)

### II-4 第64回日本病理学会近畿支部学術集会

日時:平成26年2月8日(土)

場所:大阪大学

世話人:森井英一 先生(大阪大学)

テーマ:顎・口腔疾患(唾液腺を除く)

モデレーター:豊澤 悟 先生(大阪大学)

## ---中国四国支部-----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

### A. 開催報告

#### 1. 第110回学術集会

開催日:平成25年2月16日(土)

場所:広島大学医学部第5講義室

世話人:広島大学大学院医歯薬保健学研究院病理学

### 武島幸男教授

恒例のスライドカンファレンスでは19演題が集まりました。また、剖検例も1例発表され、活発な討議が行われました。発表スライドや投票結果は<<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>>から見る事が出来ます。

一般演題

演題番号/タイトル/出題者(所属)/出題者診断/最多投票診断

S2436/脳腫瘍/ Vishwa Jeet Amatya(広島大学大学院医歯薬保健学研究院 病理学)/Rhabdoid glioblastoma/Atypical teratoid rhabdoid tumor

S2437/白質病変/西村広健(川崎医科大学病理学1)/Cerebral amyloid angiopathy-related inflammation/Progressive multifocal leukoencephalopathy

S2438/皮下病変/香月奈穂美(香川大学医学部附属病院病理診断科)/Cutaneous meningioma/concord

S2439/大腿部皮下腫瘍/徳安祐輔(鳥取県立中央病院病理診断科)/Low grade myofibroblastic sarcoma/Nodular fasciitis

S2440/口蓋腫瘍/常松貴明(広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔顎顔面病理病態学)/Basal cell adenoma/Squamous cell carcinoma

S2441/左顎下腺腫瘍/田中梓菜(高知赤十字病院病理診断科部)/Mucoepidermoid carcinoma, clear cell variant/Clear cell carcinoma

S2442/顎下部腫瘍/堀口英久(徳島大学医学部人体病理学)/Carcinoma (Myoepithelial carcinoma) ex pleomorphic adenoma/concord

S2443/胃腫瘍/西阪隆(県立広島病院臨床研究検査科)/Sarcomatoid carcinoma/Synovial sarcoma

S2444/大網・腹膜病変/堀田真智子(倉敷中央病院病理検査科)/Giant-cell phlebitis/Vasculitis

S2445/気管腫瘍/高木雄三(鳥取大学医学部器官病理学)/Alveolar rhabdomyosarcoma/Myoepithelial carcinoma

S2446/肺の多発性腫瘤/万代光一(東広島医療センター臨床検査科)/Epithelioid hemangioendothelioma/concord

S2447/胸壁腫瘍/小田晋輔(広島鉄道病院臨床検査室)/Pleomorphic Liposarcoma/concord

S2448/左下腹部腫瘍/齊藤彰久(呉医療センター・中国がんセンター病理診断科)/Pleomorphic rhabdomyosarcoma/Malignant fibrous histiocytoma

S2449/後腹膜腫瘍/坂本直也(広島大学大学院医歯薬保健学研究院分子病理学)/Dedifferentiated liposarcoma/concord

S2450/左腎盂腫瘍/黒田直人(高知赤十字病院病理診断科部)/Invasive urothelial carcinoma high grade, plasmacytoid variant, with abundant osteoclast-like giant cells and focal rhabdoid feature/Invasive urothelial carcinoma

S2451/卵巣腫瘍/竹内真衣(岡山大学医歯薬学総合研究科病理学[腫瘍])/Malignant Brenner tumor/concord

S2452/頸部リンパ節病変/石川典由(島根大学医学部器官病理学)/Peripheral T-cell lymphoma, lymphoepithelioid variant (Lennert lymphoma) /concord

S2453/左乳頭部腫瘤/西村理恵子(四国がんセンター臨床検査科)/Syringomatous tumor/concord

S2454/乳腺腫瘍/大森昌子(岡山大学病院病理診断科)/Adenoid cystic carcinoma with sebaceous and squamous differentiation/Matrix-producing carcinoma

解剖症例

小児期からCK上昇を伴う心不全を呈し多臓器不全を併発して死亡したポンペ病の一剖検例/城間紀之(広島大学病院病理診断科)

### B. 開催予定

#### 1. 第111回学術集会

開催日:平成25年6月22日

世話人:島根大学 丸山理留敬教授

#### 2. 第112回学術集会

開催日:平成25年12月7日

世話人:岡山赤十字病院 大原信哉先生

-----九州・沖縄支部-----

九州・沖縄支部編集委員 相島 慎一

1) 九州沖縄支部学術講演会が開催されました。

日時:平成25年1月26日

場所:産業医科大学ラマツイーニホール

演題:「卵巣腫瘍診断の日常:その固有性と多面性」

演者:安田政実先生(埼玉医大国際医療センター-病理診断科)

2) 第331回九州・沖縄スライドコンファレンスが開催されました。

日時:平成25年1月26日

場所:産業医科大学ラマツイーニホール

世話人:産業医科大学医学部第二病理 笹栗 靖之

産業医科大学医学部第一病理 久岡 正典

参加人数 127人

症例番号/出題者/所属/患者年齢/患者性別/部位/出題者診断/投票最多診断  
(投票数 36)

- 1/熱海恵理子/琉球大学病理部/30代/男/肺/Multicentric Castleman's disease/ Interstitial pneumonia, MCTD related
- 2/野口絃嗣/産業医科大学第二病理/70代/女/側頭部/Papillary carcinoma arising in/derived from thyroglossal duct cyst/ Papillary carcinoma
- 3/北田昇平/産業医科大学第二病理/70代/女/甲状腺/ Carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) / Carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE)
- 4/高橋俊介/九州大学形態機能病理/40代/男/膀胱/Mucinous cystic neoplasia of low-grade dysplasia with low grade dysplasia/Mucinous cystic tumor
- 5/田崎貴嗣/産業医科大学病理診断科/60代/女/膀胱/ Epithelial inclusion cyst in intrapancreatic heterotopic spleen/ Heterotopic spleen with epithelial (epidermoid) cyst
- 6/山田倫-北岡光彦/熊本中央病院/70代/女/腎臓/Synovial sarcoma, monophasic, fibrous/Synovial sarcoma
- 7/川村和弘/大分大学診断病理学/30代/女/精巢/Leydig cell tumor/Leydig cell tumor
- 8/甲斐敬太/佐賀大学診断病理学/20代/男/Verruciform xanthoma/Verruciform xanthoma
- 9/鮫島直樹/宮崎大学構造機能病態学/30代/女/外陰部・骨盤/Aggressive angioyxoma/Aggressive angioyxoma
- 10/島尾義也/県立宮崎病院/60代/女/子宮/Malignant mesenchymoma arising from uterine leiomyoma/ Carcinosarcoma (MMMT)
- 11/渡辺次郎/公立八女総合病院/70代/男/卵巣/Mucinous adenocarcinoma in borderline malignancy/ Adenocarcinoma, mixed
- 12/伊藤智宏/福岡大学病理学/60代/女/卵巣/Mature cystic teratoma with carcinoid, mixed type/Strumal carcinoid with mature cystic teratoma
- 13/大内清子/九州厚生年金病院/60代/女/乳腺/Matrix producing carcinoma/Metaplastic carcinoma with mesenchymal differentiation (Matrix producing carcinoma)
- 14/鍋島篤典/産業医科大学第二病理/50代/女/乳腺/Pleomorphic carcinoma/Pleomorphic carcinoma
- 15/明石道昭/佐賀県立病院好生館/60代/女/腹腔/Multiple hemangiomas adenomatoid tumor/ Hemangiopericytoma
- 16/瀧谷亮/産業医科大学第一病理/60代/男/前頭葉/Neurosarcoidosis/Neurosarcoidosis

3) 第332回九州・沖縄スライドコンファレンスが開催されました。

日時:平成25年3月16日

場所:沖縄県医師会館3Fホール

世話人:琉球大学大学院腫瘍病理学講座 吉見 直己

細胞病理学講座 加藤 誠也

参加人数 87人

症例番号/出題者/所属/患者年齢/患者性別/部位/出題者診断/投票最多診断  
(投票数 29)

- 1/宮原聡/福岡大学医学部病理/60代/男/肺/Rounded atelectasis/ Rounded atelectasis
- 2/神尾多喜浩/済生会熊本病院/30代/女/胃/ Tubular adenocarcinoma, well diff. associated with primary immunodeficiency syndrome/ Tubular adenocarcinoma, well diff.
- 3/佐野由紀子/九州大学形態機能病理/40代/女/胃/ Adenocarcinoma and dysplasia in juvenile polyposis syndrome/ Adenocarcinoma arising in hyperplastic polyp
- 4/二村聡/福岡大学医学部病理/70代/女/胃/Signet-ring cell carcinoma and sarcoidosis/ Signet-ring cell carcinoma and granulomatous gastritis
- 5/新野大介/久留米大学病理学/70代/男/空腸/CIS (PanIN-3) arising in ectopic pancreas in jejunum/ PanIN-3 (carcinoma in situ) arising in ectopic pancreas
- 6/Xin-Guo-鍋島篤典/産業医科大学第二病理/80代/女/小腸/Schwannoma/SchwannomaとMPNST同数
- 7/太田敦子/福岡大学筑紫病院/70代/男/大腸/Ischemic lesion due to mesenteric panniculitis/ Mesenteric panniculitis
- 8/東美智代/鹿児島大学人体がん病理学/60代/女/Pancreatic neuroendocrine neoplasm, G2, clear cell variant/ Neuroendocrine tumor
- 9/小菅則豪/琉球大学腫瘍病理/20代/女/腎臓/Mucinous tubular and spindle cell carcinoma/Renal cell carcinoma, Xp11.2 translocation
- 10/新垣克実/九州大学形態機能病理学/60代/男/副腎/Epithelioid angiosarcoma arising in cortical adenoma/ Angiosarcoma
- 11/渡辺次郎/公立八女病院/70代/女/子宮体部/Malignant PEComa/ Leiomyosarcoma
- 12/末吉和宣/鹿児島市立病院/30代/女/子宮/Amniotic fluid embolism, uterine type/ Amniotic fluid embolism
- 13/梅崎靖/長崎医療センター/30代/女/胎盤/Congenital leukemia in Down syndrome/ Congenital acute myelogenous leukemia
- 14/西田陽登/大分大学/40代/女/卵管/Pseudoxanthomatous salpingitis (and endometriosis)/ Pseudoxanthomatous salpingitis
- 15/吉河康二-武内秀也/別府医療センター/40代/女/乳腺/Juvenile (giant) fibroadenoma/ Fibroadenoma
- 16/後藤綾子/鹿児島大学/60代/男/右心室/Cardiac hemangioma/ Cardiac hemangioma
- 17/林徳真吉/長崎大学病理部/60代/男/心臓・肝臓/(Heart) Angiosarcoma, (Liver) Cavemous hemangioma/ (Heart and liver):Hemangioma
- 18/本田由美/熊本大学病理部/80代/女/頬部皮膚/Merkel cell carcinoma in (proliferating) trichilemmal tumor cyst/ Merkel cell carcinoma
- 19/松下能文/千鳥橋病院/60代/女/外耳道/Pleomorphic adenoma of the ceruminous gland/ Mixed tumor (chondroid syringoma)
- 20/野口絃嗣/産業医科大学第二病理/2歳/男/前額部皮下/ Indeterminate cell tumor / Langerhans cell histiocytosis

=====

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会:村田哲也(委員長)、望月 眞(副委員長)、深澤雄一郎(北海道支部)、増田友之(東北支部)、中村直哉(関東支部)、森谷鈴子(中部支部)、伊東恭子(近畿支部)、串田吉生(中国・四国支部)、相島慎一(九州・沖縄支部)

-----